

⑤2南本牧はま道路整備事業

受賞機関 国土交通省 関東地方整備局 京浜港湾事務所
横浜市港湾局、首都高速道路株式会社 神奈川建設局

全建賞審査委員会の評価ポイント

港湾物流輸送の効率化を目指し、臨港道路の海上橋梁や陸上高架橋などを整備した事業。大規模かつ制約条件の厳しい施工環境のもと、海上橋梁部の上部桁を国内最大級のフローティングクレーンを用いて3分割で架設し、安全確保と工期短縮を実現したことと、本事業により横浜港のふ頭間の輸送時間が短縮され、ふ頭機能一体化によるコンテナ物流機能が向上したことを評価。

1. はじめに

南本牧はま道路は、横浜港の南本牧ふ頭と本牧ふ頭を結ぶとともに首都高湾岸線に直結する臨港道路である。平成21年度より事業着手、安全性や工期短縮効果が期待される構造形式、施工方法を採用し、平成29年3月4日に開通した。

2. 事業の概要

横浜港内の主要なコンテナターミナルと物流拠点は、南本牧ふ頭、本牧ふ頭、大黒ふ頭に分散しているが、南本牧ふ頭へのアクセス道路は一つしかなく、渋滞の原因になるなどの課題を抱えていた。そのため、本事業では主要ふ頭間の輸送時間短縮によるふ頭機能の一体化や、南本牧ふ頭と高速道路ネットワークの直結化、南本牧ふ頭の陸上輸送ルートの複線化を目的とし、臨港道路本線の海上橋梁部及び陸上高架部2.5km、首都高湾岸線出入口ランプ1.2kmの整備を行った。



フローティングクレーンによる桁架設状況

海上橋梁部の上部桁には国内最大クラスのフローティングクレーン（3,000 t 吊）を使用し、3分割での架設で施工を計画、海上航行船舶への安全確保や工期短縮を達成した。

3. 事業の成果

開通後、南本牧ふ頭から本牧ふ頭までの所要時間が約4割減少するなど主要ふ頭間の輸送時間が短縮されるとともに、首都高湾岸線への直結化により高速道路ネットワークへのアクセスが大幅に改善され、横浜港における物流機能強化が図られた。

また、南本牧ふ頭への交通アクセスが複線化されたことにより大規模地震時等の対応が強化され、災害時における経済・産業活動の維持にも貢献できるものと考えている。



完成後 海上橋梁部付近

4. おわりに

本事業は、早期の整備効果発現が期待される、首都高湾岸線への連絡を含む南本牧ふ頭～本牧錦町区間をⅠ期事業範囲と位置づけて先行整備を行った。残るⅡ期事業についても、横浜港のさらなる機能強化のため早期の整備を図って参りたい。

賛助会員 エム・エムブリッジ(株)、(株)大本組、オリエンタル白石(株)、五洋建設(株)、世紀東急工業(株)、(株)長大、鉄建建設(株)、東洋建設(株)、(株)NIPPO、パシフィックコンサルタンツ(株)、日立造船(株)、宮地エンジニアリング(株)、(株)横河ブリッジ